

OPINION

中部経済新聞

2021年4月5日、この月曜コラムは「リポート コロナ禍に立ち向かう世界のいま」日本への提言」として開始された。「今日から1年間世界のいまを毎週月曜に連載することになりました」という書き出しで始まり、そ

ナビゲーター

れから3年が過ぎた。初年度(21年4月から22年3月)は、コロナ禍などのように対応しているかを世界各地から報告する形とした。3月末第41回で終えるまでに、23力国から報告があった。米国などは複数の執筆者から集めたため、総執筆者

日本への期待 世界各地から

其 82

100人近くの外国人執筆者に感謝

は30人近くに上り、正直にいうと原稿依頼や督促、回収に手間を要した。最大2回までは連続可能としたが、もっと深く追求するべき内容があるようにも感じられた。

次年度(22年4月から23年3月)は「日本への期待 世界各地から」とタイトルを変え、前年の反省を踏まえて、誰が深みのある記事を作成できるのかを見極め、連続は8回程度までとし、深く掘り下げた内容を掲載した。具体的にはスイス、メキシコ、フィ

連載3年間を振り返って

ンランド、またアフリカ諸国などである。新たな知見も得た。たとえば、メキシコの独立には日本外交官が手を差し伸べていたこと、アボカドがかの国を原産とすることなど。やや長い連載は翻訳側にも励みとなった。

3年度目(23年4月から今年3月)は前年度を引き継ぎつつ、新たな国々を加え、隣国の韓国、中国、インド、イランと日本から西向きで連載を継続中である。3年度目は16力国から報告がなされた。2年度目からの比較的

長い記事は、コロナ禍の報告者と重複することがあるものの、単発は重複が少ないうえ依頼しても書けない人もいる。他方、研修参加者は、書くことが本業ではないのに、立派な報告を送ってくれる人が多く、感謝にたえない。日

3年度目(23年4月から今年3月)は前年度を引き継ぎつつ、新たな国々を加え、隣国の韓国、中国、インド、イランと日本から西向きで連載を継続中である。3年度目は16力国から報告がなされた。2年度目からの比較的

本成功は特別な秘密があるのではなく、街を歩き、工場で働くすべての人々こそが源泉で、品質や生産性向上を推進しているなどの秀逸な報告に、翻訳を担当した

これだけの書き手を集めることができたと自画自賛するわけではないが、翻訳・編集者眞利(みより)に尽きる。書き手は、主に仕事を通して個人的なつながりのある同業者やリーム中産連が受託する外国人研修コース参加者である。前者は主に経営コンサル

3年間を総括して、いよいよこの連載は終わります、となるころだが、4月からも連載を継続させていただけ

感謝します。と同時に、世界各国の協力者の確保に精を出すことになりそうである。書き手と読み手の協働関係があつてこそ、コラムはより魅力的なものとなる。読者の皆さまの意見を期待します。たとえば、こんな国から

各国事情を聞きたいというふうな、といっている間にアフリカ、フィンランドから連絡が届いた。新たな1年間よろしくお願ひいたします。

【リーム中産連】

(月曜日に掲載)